

(3) 今後の展望

① 進め方の方針

「嬉野市学校評価ガイドライン」を基本として、各学校の状況に応じて進める。

- ・ 『息の長い、実のある、改善につながる、子ども中心の学校評価』を進める。

② 今後の具体的な進め方

- 校長の学校経営ビジョン、学校教育目標から、学級経営案、自己目標との連動
 - ・ 校長が明確な学校経営ビジョンを掲げ、リーダーシップによって、全教職員の共通認識と共通実践のために、各目標との連動を図る。
- 学校評価についての日頃からの意識付けと組織力の高揚
 - ・ 日頃から職員会議・研修会等で定期的に議題に取り上げ、地道に継続する。
- 学校に呼び込む、学校から出て行き、地域の教育力を活性化
 - ・ 学校へ保護者、地域住民を呼び込む機会を拡大し、学校に足を運んでもらう。地域からのボランティア講師招聘、学習への協力等、更に積極的に推進する。
 - ・ 学校から、地域へ出て行く機会を拡大し、地域で活動し、学ぶ学習を増やす。生活科、社会科、理科、総合的な学習、施設訪問等で、機会を更に増やす。
- 「校長先生の知恵袋事業」のプレゼンテーションに係る学校支援と条件整備
 - ・ 学校経営ビジョン → 学校評価 → 改善策 → 校長先生の知恵袋事業
 - ・ 各学校の学校評価による改善策も含めた校長先生のプレゼンテーションについて、学校裁量の予算配分を行う。つまり、教育委員会が学校課題や施設等の問題を把握して、魅力ある学校づくりを支援する。

③ 平成22年度嬉野市学校評価の検討案

- 学校関係者評価の模索
 - ・ 各学校の学校評議員会に係る学校関係者評価3ブロック制
小中連携で3ブロックとし、校長は1ブロック内の学校評議員会に出席する。
①嬉野中、嬉野小、轟小、大草野小 ②塩田中、五町田小、久間小、塩田小
③吉田中、大野原小中、吉田小 (※ 互いに他校の姿を観て、指摘する)
 - ・ 第三者評価的な学校外部の方(学識経験者等)に、客観性を高める各学校の学校関係者評価に入って頂くことを推進する。
 - ・ P T A役員会での協議
学校評議員会と同様に、学校関係者評価を広めるためにP T A役員会の協議題に日頃から位置付ける。
- 小中連携の「ろく・さんプラン」研修会
 - ・ 3ブロック小中連携研修会(分科会:学習習慣、児童生徒理解、生活指導)
すでに2年間実施してきた1中学校3小学校の実践の成果を生かし、3ブロックに広げて、全教職員の参加のもとに、分科会に分かれて協議し、小中連携を更に進める。分科会の意見交換の中で、在籍校の課題を見直す、評価する機会として活用する。
- カリキュラム評価を含めた広義の学校評価の模索
 - ・ 教育活動・教育課程の評価、校内研究評価、授業評価等、学校内の評価についても、学校評価の概念設定とP D C Aサイクルによる改善計画を構築する。